



春の防火・防災フェスティバル

日時：**令和7年3月12日(水)**

午前11:30～午後2:00

場所：有楽町駅前広場

(千代田区有楽町2-7-1先)

内容：東京消防庁音楽隊による演奏
地震体験車や消火器などの様々な
体験コーナーをご用意しています。

※雨天(小雨含む)の場合、東京消防庁音楽隊
による演奏は中止となります。

当日の予定の変更等については、丸の内消
防署ホームページをご覧ください。



体験してみませんか？

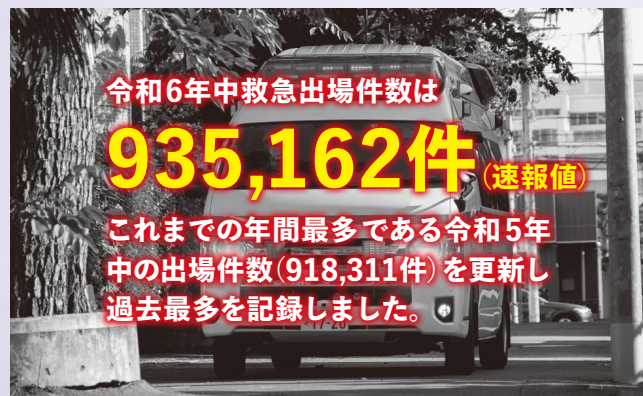
電気火災実験



丸の内消防署管内で多発する電気火災が実際にどのよう
にして発生するのか、実験を通して知ることができます。

あなたのオフィスに訪問して実験を行うこともできます。職場の皆さんで見
学し、一緒に電気火災を防ぎましょう！

※実験をご希望する方は、事前に丸の内消防署にお電話にてご予約ください。



丸の内消防署 [電話] 03-3215-0119 [FAX] 03-3213-2589

有楽町出張所 [電話] 03-3213-0119

E-mail marunouti3@tfd.metro.tokyo.jp



丸の内消防署ホームページをぜひ、ご覧ください！



丸の内消防署

検索

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

ACCESS 丸の内 119

2025年2月
Vol.227

発行/丸の内防火防災協会、丸の内災害予防普及会 監修/東京消防庁丸の内消防署

世界一安全・安心なまち
丸の内をめざして



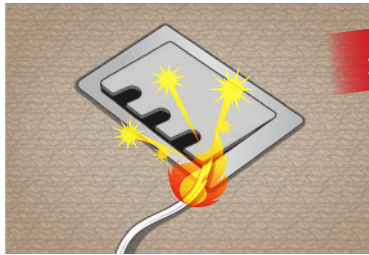
春の火災予防運動 3/1(土)~3/7(金)

減りません！ 電気火災



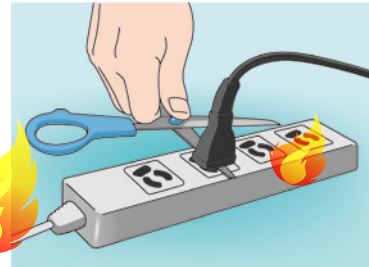
令和6年中に丸の内消防署管内で発生した火災は74件。そのうち、60件が電気火災で約81%を占めています。(令和6年速報値)
この74件は**過去50年で最多**の件数となります。

丸の内消防署管内のオフィス等で実際に発生しています！



火災事例①

フロアコンセント使用時、正しくコードを通さなかったため、コンセントカバーの鋭利な部分にコードが挟まるなど、スパークし火災に至った。



火災事例②

ロック式電源タップから無理にプラグを抜こうとして、ハサミや金属性の定規などを差し込んだためスパーク(ショート)し火災に至った。



火災事例③

電子レンジでの過剰な加熱やレンジ非対応の物を過熱し、火災に至った。

※スパークしたもの、幸いスパークのみや過熱による煙の発生のみで、焼損した部位がなく**火災とならなかったもの(非火災)**が**31件**発生しています！

件数	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
火災件数	59件	50件	68件	74件
電気火災件数 (電気火災の割合)	49件(83%)	45件(90%)	58件(85%)	60件(81%)
コンセント・プラグが発火源の火災件数 ※1	17件(35%)	20件(44%)	18件(31%)	23件(38%)
出火箇所が調理場等の件数 ※2	10件(59%)	3件(15%)	9件(50%)	7件(30%)

(令和6年速報値)

※1 電気火災のうち、コンセント・プラグが発火源の件数
※2 コンセント・プラグが発火源のうち、出火箇所が調理場等の件数

電気火災を防ぐポイント！



- ロック式電源タップの正しい使い方を理解する！
- 電気プラグは緩みや隙間なく差し込む！
- コードの被覆が損傷していれば使用しない！
- 差込プラグに変形があれば使用しない！
- コンセントやテーブルタップは定期的に清掃をする！
- コードが什器等の下敷きになったり、押しつけなどにより、傷ついたりしないようにする！
- 差込プラグを抜く際は、無理な抜き差しをしない！



丸の内消防署管内の火災状況はこちら

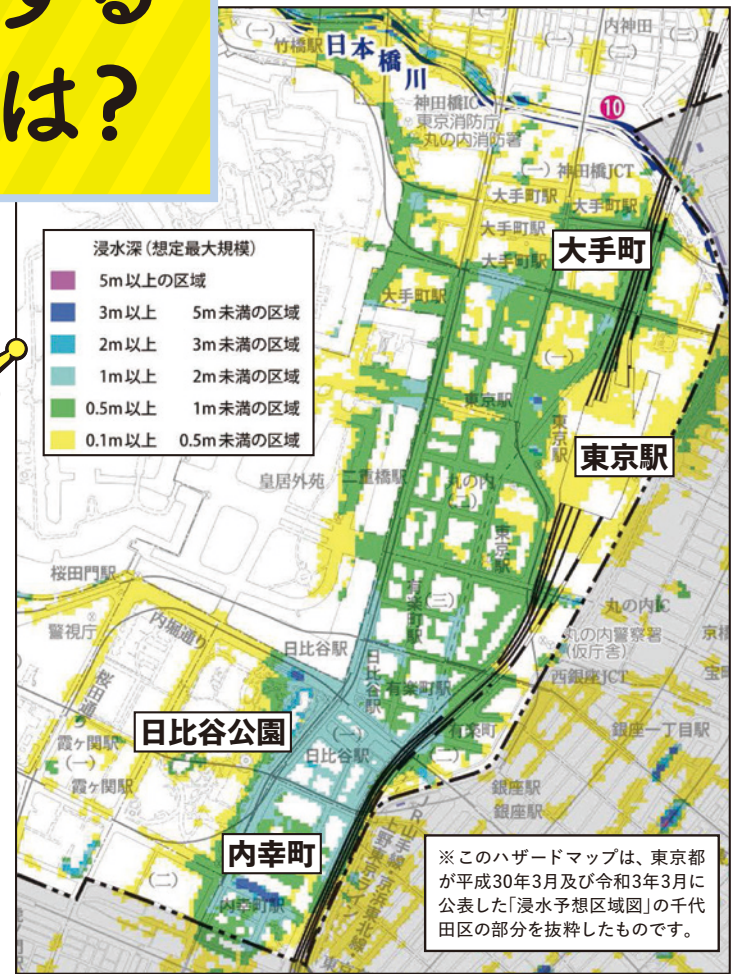
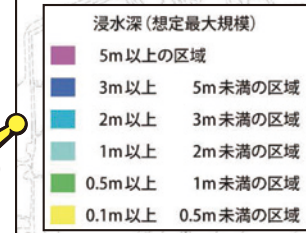


オフィスの火災予防動画はこちら



都心でも発生する 都市型水害とは？

都市型水害とは、局地的、短時間で大雨が降ったときに河川水位が急激に上昇し越水する危険や埋設の下水道などの排水処理能力が降雨量に追い付かず地下施設が浸水してしまう危険がある災害です。



※このハザードマップは、東京都が平成30年3月及び令和3年3月に公表した「浸水予想区域図」の千代田区の部分を抜粋したものです。

神田川・日本橋川・隅田川が大雨によって増水し、河川の氾濫及び既存の下水道施設や河川の処理能力を超えて水があふれた場合の浸水が予想される区域とその程度並びに避難所等を示したもの。

想定しうる最大規模の降雨(総雨量690mm・時間最大雨量153mm)を基にシミュレーション。

都市型水害発生の仕組み

ケース1

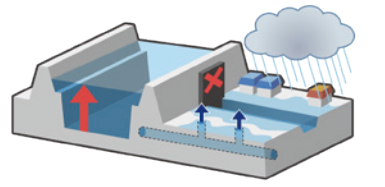
大雨で河川の水位が上昇



下水道や水路から河川に排水できない



浸水発生



ケース2

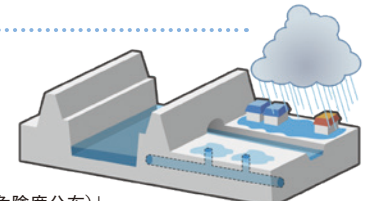
短時間の大雨



雨水がたまるスピードが下水道や水路の排水能力を上回る

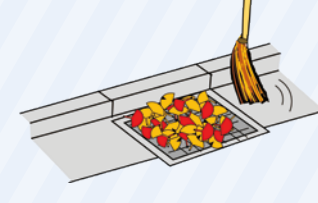


浸水発生



資料：気象庁「洪水キキクル(洪水警報の危険度分布)」

日頃のこころがけ



豪雨時の浸水への備え



タイムリーな気象情報を収集

職場圏内、現在地等での降雨状況を天気予報などでタイムリーな気象情報を収集する。

排水路や雨水ますの状態を確認

側溝や雨水ますには物を置かず、落ち葉やゴミが溜まらないように清掃する。

豪雨時は地下、半地下を避ける

豪雨時は道路面から地下、半地下に雨水が流れ込みやすいため、浸水する恐れがある。

止水板、土のうなどを設定

地下・半地下に繋がっているところには止水板や土のう、水のうなどを設定し、雨水が流れ込まないようにする。